

禁煙支援の在り方

発表者： 西川史子、村田洋子（渋谷店）
その他担当者：北川絵美子、荒井里美（女子医大通り店）
麻生恵子、内田あや（若松町店）
中村絵美、城川紀子（ミキ調剤）
小峰美奈子（祖師谷店）、北野潤（尾久店）
長久保久仁子（ブロック長）

『やめられない喫煙はニコチン依存症という病気である』との認識から、2006年4月より一定の基準を満たす禁煙希望者に対する禁煙治療に関して保険の適用が認められるようになりました。当初はニコチンガムやパッチのニコチン製剤によるニコチン置換療法しかありませんでしたが、2008年にニコチンを含まない経口禁煙補助薬『チャンピックス』が発売され、禁煙治療の選択肢も広がってきています。

2010年10月1日からのタバコ的大幅値上げを受けて、禁煙を希望する方が急増しました。そして、来年度には更にタバコが値上がりすることが検討されており、『禁煙』傾向は加速するものと思われます。

そのような中、私達は

- | |
|--|
| ①禁煙支援の啓蒙
②処方箋持参者以外の客層の取り込み
③薬剤師の活動の場を増やす |
|--|

を目的とし、禁煙支援活動を行っています。

禁煙治療の有効性は禁煙治療終了時の喫煙率ではなく、1年後の禁煙率で評価すべきであることが指摘されています。禁煙治療は、いったん禁煙に成功してもその後喫煙を再開してしまう例も少なくありません。禁煙補助薬の投与終了とともに治療を終了するのではなく、その後も継続して禁煙を維持することが重要なのです。

そこで今回はチャンピックスの長期有効性について検討したので、報告致します。

【目的】

禁煙支援の充実（特に禁煙補助薬の服用終了後の薬剤師のサポート）

【方法】

チャンピックス服用終了後の患者を対象に、来局時やメール・往復葉書により、禁煙治療1年後の禁煙状況のアンケート調査実施。

【結果】

チャンピックスによる禁煙プログラム実施後の1年禁煙率は、約55%で、低い事が判明した。

【考察】

禁煙治療1年後の禁煙率は比較的低く、再喫煙してしまう方が大勢いました。

再喫煙の理由としては、禁煙への認識が次第に薄れ、ストレスなどにより『つい1本』と軽い気持ちで喫煙してしまう事が多いようです。禁煙の長期継続の為には、本人の努力だけではなく、周囲の人の精神的サポートや、医療従事者のサポートが欠かせないと思われます。禁煙治療中はもちろんのこと、禁煙治療終了後のサポートにも重点を置き、今後も禁煙支援活動を続けていきたいと思えます。